【資料】平成28年度　神戸市立博物館自己点検評価

神戸市立博物館は下記の４項目をその「使命」として位置づけています。

(1)　神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。

(2)　市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまでにない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。

(3)　博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。

(4)　阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

この使命に基づき、神戸市立博物館は下記の４つの**「活動指針」**を掲げています。

○市民が誇れる博物館
○すべての人々に親しまれる博物館
○地域の文化を支える博物館
○情報発信をする博物館

上記の「使命」「活動指針」の実現のため、神戸市立博物館は下記の４つの**「活動目標」**を定め、これらが包含する事業・職務に対する**自己点検評価**を行っています。

１．地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします。
文化財を保存・継承していく博物館にします。
２．すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。
３．芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします。
４．すべての人々にやさしい博物館にします。

平成28年度の神戸市立博物館自己点検評価の**「総評」**は下記のとおりです。

【総評】

28年度の入館者数は、338,732人と、27年度に比べると約2万人少なかった。目標人数の約75％の達成率だったことは、展覧会の企画・運営などに関して難しさを痛感した。検証をして、今後の展覧会運営の教訓にし、魅力ある博物館を目指していきたい。ただ、30万人以上を確保できており、当館としては健闘していると考えている。

懸案であったリニューアルについては、28年度は27年度に策定したリニューアル基本計画に基づき、関係部局と協議し基本設計がまとまり、29年度の詳細実施設計のためにスムーズに準備を進めることができており、評価できる。今後、リニューアルの工程表に則って、遅滞なく進めて、リニューアル基本計画に基づき、神戸の文化振興を担う拠点博物館を目指していきたい。

４つの活動目標のうち、28年度は、「地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします」「すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします」の項目については、A評価からB評価とした。これは、27年度の「須磨の歴史と文化展」終了後、次の調査研究テーマ決定ができなかったこと、常設展示について、工夫ができているところとできていないところがあること、「古代ギリシャ」展が想定入場者数を下回ったことなどによる。これらの点については、今後の反省として、29年度はA評価になるようにしていきたい。

なお、残りの2つの活動目標は、27年度と同様であった。

※自己点検評価の詳細については、次ページ以降（1～28）を参照してください。

活動目標 **1. 地域の歴史情報や未来の指針が得られる博物館にします。文化財を保存・継承していく博物館にします。**

前年度に比して評価がBにとどまったのは、「須磨展」終了後、次の調査研究テーマへの取り組みが十分に進捗していないことが要因のひとつとも考えられる。次年度に向けての方向性が定められることが望まれる。また、地域の歴史、館蔵品資料の情報の発信という点では、概ね求められている役割を果たしていると考えられるが、館蔵品資料・寄託資料の活用、さらにはリニューアル後の展示を視野に入れて、次年度以降の活動に傾注すべきであろう。データベースもリニューアルに向けて充実を図るべきである。

資料の保全については、日頃からのチェック体制が構築されつつあるので、継続性を持たせるとともに、環境整備を図っていくことが望まれる。

活動内容 ◎11000調査・研究を積極的に行います

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

館として明確な調査研究の実績を公開できるまでには至っていないが、資料の調査・研究は博物館の機能の基礎となる重要な活動である。各分野での調査研究方針の決定を受けて、継続的な地道な取り組みが大きな成果を生み出すことが期待される。

戦略方向性 ○11100調査研究テーマの設定と方針の明示、実績の公開

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

27年度には館として設定した調査研究テーマとして設定していた「須磨展」を無事に終えることができた。
28年度は次期の調査研究テーマの設定と、その初動段階であり、今後の調査・研究の進捗に期待したい。
個人レベルでの調査研究成果は決して多くはないものの、着実に蓄積されている。単に件数を取り上げてのみ評価できるものではなく、日頃からの蓄積を重ねることが肝要であることは言うまでもない。

11110 □調査研究テーマの設定---中期、短期（年度毎）的に館としての調査計画、研究テーマが設定されているか

実施内容：
27年度の展覧会開催によって一区切りついた「須磨」の次の調査テーマとして、「六甲」と「長春閣（旧川崎正蔵コレクション）」を設定した。「六甲」については、天上寺宝物調査、石峯寺十王像調査を行い、「長春閣」については作品に関する基礎データの収集を行った。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
「六甲」は、神戸の背骨とも言える六甲山系をとりあげることで、原始から現代につながる神戸全体の歴史、文化を掘り起こすテーマであり、地域博物館としての役割を果たす意味においても、取り組む研究として相応しい。一方、「長春閣」については、川崎造船創業者による東洋美術コレクションで、現在は散逸。神戸の近代を語る上で欠かせないコレクションであり、近代産業の発展と美術コレクションの形成という広がりのあるテーマである。当館の池長コレクションはじめ、阪神間所在の私立美術館の成立史への広がりをもち、各館との連携にもつながっていく。いずれのテーマも考古、歴史、美術、古地図と当館学芸員全体が関れるテーマである。今後の展覧会開催に向け、神戸の知られざる魅力を広く発信できる調査研究計画が定まったものと評価できる。

11120 □調査件数---館内外での個人レベルを含めた調査

実施内容：
28年度　45箇所

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
調査件数は27 年度（61箇所）より減少した。これは平成28年３月末と8月末の学芸員4名の退職の影響による一時的な減少と考えられる。新しく設定した調査テーマや29年度以降の展覧会に向けた調査をはじめ、各学芸員個人への依頼による調査も行うことができた。

11130 □研究成果発信数---館内外での個人レベルを含めた執筆、講演、発表など

実施内容：
28年度：57件
個人レベルを含めた研究成果の発信件数は、27年度（47件）より増加した。所蔵資料や関係作品の調査をもとに、紀要・目録・博物館だよりの刊行を行った。
また、自主企画展、学芸員が企画に関った展覧会として、「我が名は鶴亭」「俺たちの国芳 わたしの国貞」「松方コレクション展」を開催し、展覧会図録の作成、関連講演会、行事を行った。また国際的な学術活動としては、中国・蘇州美術館への所蔵品館外貸出に際して、学芸員が学術座談会（日本・中国などの研究者が集まる国際シンポジウム）に参加。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
個人レベルを含めた研究成果の発信件数は、27年度より増加した。博物館としては、所蔵資料や関係作品の調査をもとに、紀要・目録・博物館だよりの刊行を行った。また、自主企画展、学芸員が企画に関った展覧会として、鶴亭展、国芳・国貞展、松方展を開催し、展覧会図録の作成、関連講演会、行事を行ったこと、また蘇州美術館での学術座談会など、国際的な研究活動にも参加できたことも評価できる。

活動内容 ◎12000地域の歴史に関する情報を発信します

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

自主企画展などの館内での活動、また館外での講演活動等で、着実に地域歴史に関する情報発信を行うことができた。特に、29年度に開催予定の「開国への潮流」展の開催に向けた情報蓄積が積極的に実施できた。展覧会の開催によって、市民や利用者に積極的に訴えかけられる調査研究の結実が大きな情報発信につながるものと期待される。

戦略方向性 ○12100地域の歴史を調査し、その情報を発信する事業を展開

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

特定地域に限定した調査研究はできていないが、館蔵資料の調査研究と資料の寄贈によって、広い視野での館蔵資料に関する学際研究が進んだ。
なお、「松方コレクション展」において、松方幸次郎の美術作品のコレクションの展覧にとどまらず、近代神戸の歩みについて、松方時代の川崎造船所に焦点を当てた資料の調査研究・展覧ができたことは、地域の歴史研究の上で十分に評価できる。
29年度より本格実施される総合的な資料の整理・調査活動の成果を反映しながら、併行して実施すべきデータベースの整備・拡充を通して、発信機能の充実に努めなければならない。

12110 □自主企画の特別展・企画展の開催---調査研究の成果や博物館の所蔵資料の価値を展示によりいかに発信し、共有化できたか

実施内容：
特別展「我が名は鶴亭」（4月9日～5月29日）、企画展「西洋との出会い」（4月9日～5月29日）、特別展「松方コレクション展」（9月17日～11月27日）を実施し、館蔵資料の魅力や調査研究成果を発信した。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
どの展覧会においても学芸員の研究成果に基づき本館所蔵品や借用資料を展示することができた。特別展では、「我が名は鶴亭」展においては当館学芸員の主導で図録を作成し、コレクションの魅力や研究成果を広く発信することができた。「松方コレクション展」でも、神戸の近代史を代表する実業家・松方幸次郎の業績とともに、その蒐集作品を紹介し、これに関する最新の研究成果を発信することができた。

12120 □その他関連事業の開催---地域資料（神戸及びその周辺）の価値を関連事業の開催によりいかに発信し、共有化できたか

実施内容：
特別展「松方コレクション展」関連で1回、特別展「古代ギリシャ」関連で1回、博物館をたのしむ3回のうち１回、ミュージアム講座6回のうち3回、こうべ歴史たんけん隊1回、各区勤労市民センター・神戸市立博物館連携事業9回。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
博物館をたのしむ、ミュージアム講座とも地域関連の講座が多かった。さらに、例年実施しているこうべ歴史たんけん隊に加え、25年度から始まった勤労市民センターとの連携事業で各地域に根ざした活動を９回行うことができた。幅広い地域の多様な年齢層に地域の歴史や美術について理解を深めていただくことができ、意義ある取り組みとなった。

12130 □地域資料の展示---常設展、ギャラリー、みてコレでいかに展示したか

実施内容：
ギャラリー「絵画コレクション展　画家がみた風景」では、館蔵品から、神戸にゆかりのある画家が独自の感性で描いた神戸の風景画を9点展示した。
また、特別展「松方コレクション展」では、神戸の産業界に大きな影響を与えた松方幸次郎時代の川崎造船所関係資料19点を展示することができた。
常設展示の「みてコレ」では3件5点の地域資料（中世の経箱、近代のポスター及び古写真）を展示した。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
ギャラリー「絵画コレクション展」では、神戸に愛着を持った画家が、独自の感性で切り取った神戸の風景を展示することで、日常では気付かない風景に潜む神戸の芸術的な魅力を広く発信することができた。
また、「松方コレクション展」では、神戸の近代産業に大きな足跡を残した松方幸次郎が関った川崎造船所の資料を展示し、従来、あまり知られていなかった神戸の近代史を紹介するこができた。また、本展覧会は、29年の開港150年記念特別展「開国への潮流」にもつながり、地域の歴史の連続性を複数年にわたり紹介する流れをつくれた点でも評価できる。

12140 □新聞雑誌や講演会での情報発信数---館のツールによる発信に加え、各個人の活動でどのように発信できたか

実施内容：
28年度：図録1、研究紀要1、個人の館外発信数28件

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
特別展「松方コレクション展」において、近代神戸の産業関係の資料を広く発信することができた。また、研究紀要においては、銅鐸シンポジウムの報告を掲載することができた。地域史に関する個人の発信数も25件を数え、活発であった点が評価できる。

12150 □地域史に関する対応件数---地域史や地域の資料についての様々な問い合わせに答えたか

実施内容：
28年度：特別利用地域史関係152件、その他対応件数13件

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
例年どおり特別利用の件数も多かった。また、各学芸員が、地域史や地域の資料についてのさまざまな問い合わせに積極的に対応した。開港150年に向けて増加してきている近代資料に関する問い合わせにも適切に対応した。

12160 □データベースの利用数---当面はその構築のための準備についての進捗を図る

実施内容：
文献室の３台のロッカーに保管されている資料写真のスキャニングとリストアップは約2/3が終了。約1万カットのフィルム、20.7GBを入力。また、28年度からの新たな取り組みとして、全所蔵資料の博物館内での収納場所を把握するための「所在地情報」の整備も行った。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
写真資料数が膨大なため、その入力は28年度中に完了できなかったが、実際の所蔵状況を館蔵品データベースに反映させるための基本的な作業の進展に目途がたった。

活動内容 ◎13000「東西文化交流」と神戸の歴史に関わる文化財を永続的に収集します

この活動内容への評価　**A 目標が十分達成されている（9割以上）**

本年度も、限られた予算の中でも、収集方針に則った資料の受け入れができたものと評価できる。

戦略方向性 ○13100特色ある館蔵品等の充実、収集方針の明示と実績の公開

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

資料購入については、限られた予算ではあるが、美術作品を中心に、当館の収集方針に沿って、かつ利用頻度の高そうな資料を購入できたものと考えられる。寄贈も、神戸の歴史資料を中心に、重要なものを受け入れることができており、リニューアル後の活用も期待が持てる。

13110 □資料収集（購入）---学芸員の学識経験を生かして、価値の高い資料・作品を収集できたか

実施内容：
28年度合計：4件 1,484,600円
(内訳）古地図資料：蓬莱春升画東海道鳥瞰図 48,600円
美術資料：佚山筆薔薇葉鶏小禽図 180,000円、佚山筆海棠牡丹寿帯鳥図　756,000円
川西英《メリケン波止場》1964年　500,000円

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
28年度は、古地図、美術資料ともに、当館に収集方針に沿った、展示、活用が見込める資料を購入することができた。

13120 □資料収集(寄贈）---博物館にふさわしい資料・作品の寄付採納が行われたか

実施内容：
28年度：36件117点　2,020,500円（価格はすべて評価額）
【歴史資料】
飢饉用心、馬鈴薯際栽培に就て　1件1点　3,000円（武部治正）／神戸関係古地図　1件3点　45,000円（落合久子）／神戸関係絵葉書　7件83点　8,500円（萱野早枝子）／摂州有馬郡蒲公英軍記　1件1点　30,000円（東早苗）／長濃氏収集資料　9件9点　143,000円（長濃タカ子）／塩田村絵図　1件1点400,000円（西本芳文）
【美術資料】
昇外義《白秋》ほか現代絵画　12件13点　931,000円（神戸商工会議所）／歌川国芳《二十四孝童子鑑　関子騫》　1件1点　評50,000円（勝盛典子）／C.B.バーナード《三宮　神戸》　1件1点　300,000円（嶋谷徹）／歴史・古地図資料　神戸古地図（HYOGO　AND　KOBE）　1件1点　10,000円（八馬汽船株式会社）
【美術・歴史資料】
紅塵荘ステンドグラス　1件3点　100,000円（中村祥子）

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
歴史、美術、古地図資料と各分野にわたって貴重な資料の寄贈を受けた。今後の積極的な活用が求められる。

13130 □資料収集(寄託）---この博物館にふさわしい資料・作品の寄託が行われたか

実施内容：
0件0点

自己評価：**F 評価が困難**　以下はその詳細：
寄託契約を締結した資料は0件だったが、29年度契約に向けて一時預かりし、整理を進めている資料が数件ある。いずれの資料も28度整理が終了し、29年度早々に寄託契約を締結する予定である。

活動内容 ◎14000社会的資産としての文化財（館蔵品）を保全し、後世に伝えます

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

完璧な生物対策を講じるための環境面での課題が残されているが、28年度も保存環境を脅かす深刻な事象は発生しなかったものと判断できる。

戦略方向性 ○14100良好な収蔵環境の整備

この戦略方向性への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

夏季の生物環境で、調査後の対応が充分に行われていないという評価があった。これは収蔵庫の構造上の問題で、容易に解決できるものではないが、今後も重大な生物被害を阻止するためにも、きめの細かい監視と清掃作業を行う必要がある。課題は確認されたが、基本的には、収蔵庫内でチャタテムシ発生以外の顕著で深刻な生物活動の痕跡は見つかっていないので、総合でB評価とした。西・北部壁面沿いの温湿度管理を重点的に行い、生物活動の上昇を阻止する必要がある。

14110 □収蔵（保存）環境の調査・整備（IPM)---モニタリング（温湿度・虫菌類）・清掃・問題発生時の対応

実施内容：
温湿度モニタリングについては、従来の管理方法を見直し、1階~4階までにデータロガーを17箇所に固定配置。週1回の記録紙交換(収蔵庫内3箇所)とともに学芸係の当番制で実施した。 虫菌類のモニタリングについては、4階収蔵庫のトラップ交換(49箇所)を9回、ならびに夏期生物環境調査を7月と9月に2回実施した。定期清掃13回実施。殺虫作業6回。
上記の各種モニタリングの結果、4階収蔵庫の温湿度・生物環境には深刻な異常は認められなかったが、1階の収蔵庫の温湿度不安定、4階収蔵庫周辺区域でのカビ菌存在などが計測された。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
展示・収蔵環境の現状把握と改善を図るため、データロガーによるモニタリングを徹底したことにより、当館の改善点が見えてきた。夜間の空調運転、防火扉施錠などで改善できることがある一方、1階の収蔵庫など、空調設備の強化など、根本的な設備更新が必要であるとの課題も見えてきた。また4階収蔵庫周辺でカビ菌のコロニー数が多いところも散見されており、これらの対策も29年度の課題となる。毎週第3水曜日の収蔵庫清掃の定例化は円滑に行えるようになった。 館内の殺虫作業も大型特別展の直後の時期を中心に行うことができた。

戦略方向性 ○14200資料の保全

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

地図皿など展示効果の高い資料を中心に補修が行えたものと評価できる。限られた予算のなかで効率的に補修事業を行うための資料調査や中長期的な計画など、より確実な実施環境整備が次年度以降の課題となる。

14210 □資料の補修---優先順位の高いものから、分野に偏らずに補修が行れたか

実施内容：
大規模修理：地図皿4点の接合、「摂州矢部郡車村妙法寺村石炭鉱之図」軸装
小規模修理：近代美術資料保存箱等製作、掛軸2点の掛緒・巻緒交換、「二十四孝童子鑑」シール除去

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
寄贈以降、懸案であった破損地図皿のうち4点の接合を実施できた。源内焼地図皿5枚については29年度以降の継続案件とする。
そのほかも、展覧会での展示・貸出や寄贈に際した補修を行うことができた。
一方で、膨大なコレクションのごく一部しか修理できないのが現状である。

戦略方向性 ○14300大震災による被災の教訓と復旧・復興の記録の公開

この戦略方向性への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

来るべき南海トラフ地震に備えて、過去の情報の発信から、より確実な防災体制の構築へと、重点を移行すべきである。

14310 □大震災の記録の利用---文化財防災資料センターやホームページを通じ、大震災当時の情報公開を行っているか

実施内容：
文化財防災資料センターの当館での公開は、資料を東京文化財研究所へ返還したため27年度をもって終了している。ホームページでの公開は従来通り行った。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
文化財防災資料センターの公開は終了し、当館での震災関係の情報発信は縮小したが、ホームページでの公開は続行した。

活動内容 ◎15000館蔵品に関する情報開示の整備を行います

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

市民や利用者のニーズに合わせた情報発信が望ましいものの、できる範囲の中で、館蔵品の情報の発信に継続的に取り組むことができている。
データベースの構築では、分野によって進捗に差異があることは否めないものの、29年度に行われる総合資料調査の結果を反映して、できるだけ早急に整備し、より多くの情報を発信していけるように努めなければならない。

戦略方向性 ○15100館蔵品情報の継続的な発信

この戦略方向性への評価 A 目標が十分達成されている（9割以上）

館蔵資料の発信については、継続的に実施できている。新たな発信についても、継続して準備作業を行っているところであり、総体的に十分評価できるものとなっている。
外部委託による画像提供実績は、着実に定着してきているものの、広報拡大などによって、さらなる利用の促進に努めることが必要であろう
目録やDBの整備の進捗では、分野によって作業度合いに差異が顕著に指摘できるものの、リニューアルを視野に置く中での館蔵資料の整備が急がれるところである。

15110 □館蔵品目録の継続発行---館蔵品目録は、歴史・美術の各分野において、少なくとも１冊ずつは発行されたか

実施内容：
美術、歴史の目録を各１冊刊行した。
館蔵品目録　美術の部33（浮世絵版画　総インデックス6　絵師名順　二代歌川広重～歌川芳重）
館蔵品目録　考古・歴史の部33（考古資料３）

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
限られた予算の中でも、博物館資料の情報化と公開が着実に進んでいることを示すものとして評価できる。

15120 □館蔵品の特別利用数---特別利用は十分に役割を果たしているか

実施内容：
特別利用48件 473点、画像利用165件 520点、画像提供352件 743点

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
外部委託による有料制の「画像提供」は、27年度（276件、737点）より若干増加を見せている。館内の処理分（無料）との区分を利用者に徹底することはほぼ機能しているが、いくつかの変則的なケース（たとえば利用者が特殊な手法で撮影した画像を商用利用を希望した場合）への対応には、課題が残されている。

15130 □ホームページへの掲載---より適切な画像・分類や検索方法を導入したHPの館蔵品紹介を行ったか

実施内容：
「びいどろ史料庫コレクション」については、新たな情報公開には至らなかったが、文化庁の「文化遺産オンライン」に約1100件の所蔵品情報を追加した。予定では当館ホームページにその検索用のコンテンツが追加され、博物館HPからも検索・分類が自在にできることになっていたが、文化庁側の技術的な事情で完成は29年度以降となっている。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
リニューアル後の情報公開も見据えて、「文化遺産オンライン」を用いた所蔵品情報公開に踏み切った。現状では、絵画作品が主体で、現在資料整理が進行中のびいどろ史料庫、近代写真資料については公開には至らなかった。

戦略方向性 ○15200博物館資料DBの構築

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

館蔵資料のデータベースを構築していく上で、「棚卸し」による資料の確定作業が急務となっている。この確定作業の結果を踏まえて、包括外部監査で必要性を指摘されている館蔵資料の「デジタルアーカイブ化」についても、どの範囲の資料までを対象として構築していくのか、リニューアル事業が完了するまでに改めて検討する必要がある。

15210 □データーベースのアクセス件数---館蔵品データーベースへのアクセス件数は増加しているか

実施内容：
現在公開している名品撰・Google・文化遺産オンラインはいずれも有意なアクセス統計を取るのが困難な状態にある。
文化遺産オンラインでは28年度あらたに約1100件の所蔵作品情報を追加。データベースの充実に向けた情報新規入力作業では、歴史資料の中でも需要の高い近代写真資料のデジタル化を進め、約10000枚を入力済み。また、全ての職員が収蔵庫内の全資料へのアクセスを可能にするための、収納区画情報の整理・ラベル貼りを完了。この収納情報や館外貸出情報などを館蔵品DBとリンクさせるインターフェイスを完成。

自己評価： **F 評価が困難**　以下はその詳細：
多くのページで構成される所蔵品関連のサイトでは、有意な統計情報を取得するのも難しく、評価基準として使うことができなかった。
これまで停滞していた近代写真資料のスキャニングが大幅に進展している。28年度中には全体の2/3が終わり、29年度にも継続。データベースへの関連付けも3月から始まっている。
所蔵全資料の所在確認・保存状況確認・資料価値評価を行う「総合資料調査」も29年度より本格的に開始される予定で、これにより得られた「重要資料」（数千点前後）の情報を基盤として 、リニューアルオープンにむけたあらたな所蔵品情報公開を展開したい。

活動目標 **2. すぐれた芸術・文化に出会える博物館にします。**

常設展示については、工夫を凝らして展示を行っている空間と旧態依然の空間が混在している状況にあり、工夫が望まれるところである。リニューアルに向けて展示詳細設計の中で活かしてほしいところである。

自主企画の特別展では、黄檗僧で、画家でもあった鶴亭の画業を取り上げた「我が名は鶴亭」展は作家の掘り起こしという点で大きな成果であった。「松方コレクション展」では想定入館者数を下回ったが、元年度に開催した「神戸市制100周年記念特別展　松方コレクション展」と異なった視点で開催できたことが評価に値する。

２本の海外展「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」「古代ギリシャ―時空を超えた旅―」では、入館者の評価は高く、好評であったと判断できる（アンケート結果は28年度年報に掲載）。しかし、「古代ギリシャ」展では想定入館者数を大きく下回った点に、ニーズの把握や広報などの面での課題が見受けられる。今後の展覧会開催に際して、留意して努めるべきである。

活動内容 ◎21000楽しく学べる魅力的な常設展示を行います

この活動内容への評価　**B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)**

リニューアルに向けて、常設展示の中長期的な展開については、さまざまに検討を進めているところである。特に、１階での神戸の歴史展示の集約化と無料化が実現できれば、これまでの博物館イメージを刷新できるものと期待される。また、新設されるコレクション展示との相乗効果も期待され、より楽しんでいただける空間が演出できるものと考えられる。現状は、リニューアル待ちの体勢となっており、活発な活動とは評価できないが、工夫を凝らした地道な努力の継続の点で十分に評価できる。なお、この地道な努力についてのより一層の積極的な外部への発信が望まれるところである。

戦略方向性 ○21100常設展示の内容の更新・拡充・整備

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

最低限のレベルは維持しているものの、リニューアル事業の大きな柱として位置づけされているように、全体的な展示内容の陳腐化が否めない現状である。リニューアルによって、刷新されることとはなるが、それまでの期間に、少しでも楽しんでいただける空間となるよう、小規模の展示替えであっても、広報面で積極的にアピールするとともに、さまざまな手段での情報発信のさらなる努力が必要である。

21110 □展示替え---計画が立案され、実行され、発信されたか

実施内容：
常設展示室では、以下の通り展示替えを実施した。
【常設展示室１】
７月20日～8月29日：近世の顕微鏡をテーマに司馬江漢「天球全図」など12件を展示。
9月2日～11月30日：近世の望遠鏡をテーマに「染付遠眼鏡に阿蘭陀人文皿」など９件を展示。
12月１日～：江戸時代の医療をテーマに『解体新書』など11件を展示。
【常設展示室5】
1月21日～：神出古窯址群の関連資料「軒平瓦」「壺」を各１点追加展示。

びいどろ史料庫コレクション室では、展示替えを４回実施した。
4～5月「ガラスに彩られた花や鳥たち」をテーマに《型吹き菊形黄色ガラス蓋物》など9件を展示。
6～8月「びいどろ史料庫コレクションでも浮世絵を！」と題し《当世三極志》など絵画資料5件、《青筋巻ねじり脚付ガラス杯》などガラス資料７件を展示。
9～1月「びいどろ史料庫コレクション名品選①手彫り切子の美」と題し《切子霰文脚付き杯》など10件を展示。
2～3月「和ガラスと医療器具」と題し、「カットガラス角形薬瓶」など９件を展示。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
定期的に展示替えを行った展示室がある一方で、展示替えを実施できていない展示室がある。展示構成を考慮すると展示替えが難しい展示室が見受けられるが、一部のケースだけでも実施するなどの改善が必要と考えられる。資料の保存面を踏まえて、温湿度の変化に脆弱な資料に関しては定期的な展示替えが望まれる。

21120 □常設展示内容---楽しく学べる魅力ある展示になっているかどうか

実施内容：
びいどろ史料庫コレクション室では、定期的にテーマを設けて特集展示を実施した。
展示室1では、定期的に展示替えを行い、一部のケースではテーマを設けて特集展示を実施した。
学習室においては、館蔵の考古資料を中心としたレプリカを常設しており、実際に触れながら学べる展示を展開した。
ギャラリーでは4月9日(土)-5月8日(日)受贈記念展「井茂圭洞の書」を、5月10日(火)-6月12日(日)絵 画コレクション展「画家が見た風景」展を開催。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
展示室やケースごとにテーマを設けて特集展示を実施し、入館者に館蔵品に親しんでもらう機会を設けた。
展示替えを実施した際の入館者への広報活動(フェイスブック、ツイッターなど)はびいどろ史料庫の展示を除き行うことができなかった。展示室３で行っている特集小展示「みてコレ」意外に、新収蔵作品・資料を展示する機会を設けることができなかった。

21130 □展示解説開催数---解説の開催予定日に必ず実施されているかどうか

実施内容：
常設展示期間中に１日２回（①11時～、②14時～）実施。28年度は34日、68回実施し、全体で午前の部65名、午後の部81名、合計146名の参加があった。
１日平均4.3人。参加者のいない日数：5日。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
目標数値（1日平均5人程度）に到らなかった。常設展示期間中、ホールケースに仮設壁を立てた状態での開館が続いたため、《聖フランシスコ・ザヴィエル像》、《南蛮屏風》などのレプリカも展示できない日が多かったことも要因の一つと考えられる。また、常設展示の展示替えを行った際に、フェイスブックなどを利用して広報する機会が少なかった。

21140 □展示設備・施設の改修---改修に向けての問題点、課題の把握にいかに努めたか

実施内容：
展示設計、建築・設備設計ともに適切な事務手続きのもと、委託契約を締結し、関係部局と協議を図りながら、「基本設計」を進めることができた。策定に当たっては、27年度末に策定した「神戸市立博物館リニューアル基本計画」の整備方針に基づいて進めた。29年3月末には基本設計が完成し、29年度の詳細実施設計に向けての準備を進めることができた。
基本設計では現状のゾーニングの再編を行っている。１階は無料ゾーンとし、ホールの北側で「神戸の歴史と文化のフロア」として常設の歴史展示を展開し、南側ではミュージアムショップ・ライブラリカフェ・情報コーナーなどを配し、サービス機能の充実を図る。２階には「コレクション展示室」を新設し、当館コレクションの国宝「桜ケ丘銅鐸」、重要文化財の「ザヴィエル像」「織田信長像」などの名品を可能な限りいつでも観覧できるようにする。また、1〜3階のトイレの改修をあわせて行い、アメニティ設備を改善する。さらに、地下講堂の映像装置の更新と改修を図る。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　　以下はその詳細：
特に、建築・設備に関する基本設計では、「開かれた博物館」というイメージを前面に押し出した営繕部と設計業者に対して、博物館のあるべき環境について理解していただくのに、結果的にかなりの時間を費やすこととなったが、双方で納得の上、基本設計を終えることができた。限られた予算の中で、見送らざるを得ない部分が存在し、将来への課題を残すこととなるものの、概ね納得できるものとなった。

活動内容 ◎22000特色ある館蔵品を活かした展示を行います

この活動内容への評価　**B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)**

今後とも調査研究の継続による自主企画展の開催が重要であることは言うまでもない。自主企画としての特別展・企画展の開催は、館蔵資料の調査研究と活用の両面で極めて有意義であった。今後とも、館蔵資料に関する調査研究を継続することはもちろんのこと、その成果を公表できる場としての魅力のある展覧会を中長期的な視野をもって積極的に開催することが望まれる。

戦略方向性 ○22100調査研究に基づく自主企画の特別展・企画展の開催

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

開催した２本の自主企画の特別展では、評価が分かれる結果となった。入館者数の面では「我が名は鶴亭」展の実績が高く評価され、来館者の満足度とともに作家の掘り起こし展としての効果が十分に発揮できた。一方の「松方コレクション展」は入館者が11万６千人にとどまり、想定数との乖離があった。広報戦略等を含め、改善の必要性が指摘できる。
今後とも調査研究の継続による自主企画展の開催が重要であることは言うまでもない。

22110 □展覧会開催---自主企画特別展を実施できたか。自館コレクションや学芸員のノウハウを有効活用できたか

実施内容：
計画通り実施。「我が名は鶴亭」展は44日間の開催。118点の展示。知名度の低い画家にスポットを当てた展覧会であったが、作品キャプションにひと言見どころを付けたり、絵の内容を図式で紹介したりするなど、入館者にわかりやすくみせることを心がけた。記念講演会３回。毎週土曜日サタデートーク。こどもの日スペシャル1回。ジュニアミュージアム講座1回。（本展は巡回展として、当館に先立ち長崎歴史文化博物館でも2月6日～3月27日に開催）
「松方コレクション展」は62日間の開催、159点の展示。フランスに留置された旧松方コレクション5点に加えて「松方が集めていたかもしれない作品」というコンセプトでらさらに18点をフランス諸館から借用・展示したこと、当時のフランスのジャポニスムを象徴する北斎・歌麿の作品19点を展示した。記念講演会３回。毎週土曜日イヴニングレクチャー。ジュニアミュージアム講座２回。親子鑑賞会１回。

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
「我が名は鶴亭」展については、鶴亭の作品は当館でも多く所蔵されており、若冲をはじめとする江戸中期の奇想的花鳥画が注目を集めている中での開催となり、想定外の入場者を集めた。学芸員が全国的な作品調査を行ってきた集大成として、149点からなる巡回展として実現した。
「松方コレクション展」については、同趣旨の展覧会は元年度にも行ったが、これとは違った方向性を打ち出せたことが評価できる。今回はオルセー美術館名誉学芸員のカロリーヌ・マチュー氏の協力とキュレーションにより絵画作品23点をフランスから借用するなど、当館が培ってきた学術的経験とフランス主要館との信頼関係によって実現したと言って過言ではない。

22120 □展覧会収支　計画段階で予定した入館者数・有料率・グッズ販売は達成できたか

実施内容：
【我が名は鶴亭】
入館者数　40,464人　有料率49.4%（19,997人）　図録販売数　2,865冊（購入率7%）

【松方コレクション展】
入館者数116,065人　有料率55.3%　図録販売数　2838冊（購入率2.4%）

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
「我が名は鶴亭」展は、実行委員会形式での開催、また斬新なポスターデザインの効果もあり、目標（27,100人）を超える入館者数となった。また、本展の開催時期が「生誕300年　若冲展」（於：東京都美術館）と重なっていたこともあり、副タイトルに入れた「若冲、大雅も憧れた花鳥画！？」をみて来られる方も多かった。図録は学芸員の主導で制作され、7%の高い購入率を示したのは特筆に値する。「松方コレクション展」は有料率は高かったものの、目標入館者数（15万人）を下回った。著作権の制約から思い切った広報戦略が打ち出しにくい面もあった。会期中には松方コレクションの一部を所蔵する国立西洋美術館の世界遺産登録、イギリスで焼失したコレクションのリストが発見されたことなどが話題となったが入館者増にはつながらなかった。また図録購入率が伸び悩むなど収入が低迷したが、協賛金により収支はプラスに転ずることはできた。

22130 □満足度---展覧会の入館者が満足できたか（全体満足度83以上。他の細目についても80以上を目指す）

実施内容：
【我が名は鶴亭】
全体満足度：84.9
スタッフの対応：81.3　展示の見やすさ：78.0
解説のわかりやすさ：79.3　展示の環境：78.4
展示品の質：86.2　図録：79.3

【松方コレクション展】
全体満足度：81.7
スタッフの対応：82.1　展示の見やすさ：74.6
解説のわかりやすさ：69.8　展示の環境：75.5
展示品の質：86.1　図録：75.6

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
「我が名は鶴亭」展は、全体満足度は比較的高かった。当館の使い勝手のよくない展示室で、照度を絞ったため、展示の見やすさについては意見が分かれた。また、解説や図録についても、今までにない取り組みを行ったため、意見が分かれたと思われる。
「松方コレクション展」は、「解説のわかりやすさ」では満足度が70を割り込んでいる。キャプションの文字の大きさもさることながら、分量と内容も現代的なアレンジがなされなかったことが原因。展示作品の情報が集約されるのが遅く、キャプションの制作に余裕が持てなかったことが最大の問題。「展示の見やすさ」も低調。展示品そのものに対する評価は「我が名は鶴亭」展と同程度に高いが、展示室の天井の低さに起因する大型絵画作品の「照明てかり」による鑑賞の障害がアンケートに多く指摘され、この種の作品を主体とする展示での問題点があらためて浮き彫りとなった。

戦略方向性 ○22200南蛮・古地図の企画展の開催

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

特別展との展示スペースの取り合いの制約があった中で、ある一定の成果は得られたと考えられる。リニューアル後のコレクション室の展示において、これまで以上に、中長期的な展示計画に基づいた企画展の開催が望まれる。

22210 □南蛮美術・古地図企画展の開催---所蔵品・学芸員の特性を活かすことができたか

実施内容：
「西洋との出会い」展。4月9日～5月29日まで、2階特別展示室2で開催。聖フランシスコ・ザヴィエル像、都の南蛮寺図、狩野内膳筆南蛮屏風など、南蛮美術は17件。古地図資料はシルバヌス編プトレマイオス地図帳など11件。初期洋風画屏風は西洋風俗図1件のみにとどまったが、同時開催の特別展の関係上、比較的小さな展示室での開催となったため、屏風絵の展示に制約があった。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
最も人気の高いザヴィエル像と南蛮屏風は展示できたが、展示スペースの関係上、初期洋風画の大作を紹介できなかったのは残念。しかし、入場者数は同時開催の特別展とほぼ同じ4万人だったので、多くの入館者の目に触れさせることができたのは評価できる。

活動内容 ◎23000海外展などの特別展を開催します

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」展、「古代ギリシャ展」と、国内外の貴重な文化財・名品を紹介する展示で入館者の満足度についても目標とする83以上の数値を得ることができたが、「古代ギリシャ展」については、収支バランスの面で課題が残った。

戦略方向性 ○23100国内外のすぐれた資料、作品を全国巡回展で紹介

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

28年度は「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」展、「古代ギリシャ展」と、国内外の貴重な文化財・名品を紹介する特別展4本を開催した。各展、工夫を凝らした展示や関連イベントを行い、魅力ある展覧会づくりと周知に努めた。その結果、入館者の満足度についても目標とする83以上、あるいはそれに近い数値を得ることができた点は評価できる。ただし「古代ギリシャ展」については、入館者数は想定の6割弱にとどまり、収支バランスの面で課題が残った。

23110 □巡回特別展開催---当館の独自性を活かしつつ充実した内容の展覧会を開催できたか

実施内容：
【ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳 わたしの国貞】
62日間の開催。170件の展示。約5万点を数えるボストン美術館浮世絵コレクションの中から、歌川国芳・歌川国貞の作品を厳選し展示。作品の選定は当館を含む巡回各館学芸員が現地調査のうえ行い、特に国貞作品の選定は、理屈抜きで視覚的に楽しめる作品に限定したいとする当館の意向が強く反映された。斬新な展示構成やグッズ展開など、巡回展共通の仕様に加え、当館独自の取り組みとして、期間前半(7月31日まで)に全作品の写真撮影を許可。全作品にキャッチコピーを貼付。講演会３回。スペシャルレクチャー１回。毎週土曜日にイヴニング・レクチャー。プレゼント付き人気作品投票「くにくに総選挙」を実施。ジュニアミュージアム講座１回。親子鑑賞会２回を行った。
【古代ギリシャ展】
82日間の開催、325件の展示。ギリシャ国内40箇所以上の博物館群から厳選された作品で構成。その9割以上が日本初公開。7000年にわたる時空を超えた旅を体感できる展示で、従来の古代ギリシャのイメージを刷新する、新鮮な魅力に富んだ展示となった。記念講演会2回、特別講演会1回。スペシャルトーク1回。毎週土曜日にイヴニング・レクチャー。ジュニアミュージアム講座2回。障害者のための鑑賞会1回。神戸歴史たんけん隊1回。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳 わたしの国貞」については、巡回館のひとつとして、作品選定から当館学芸員も参画し、展覧会構成と図録制作にも深く関与した。また、当館独自の作品解説とイベントも展開した。「古代ギリシャ展」は、鑑賞しやすい展示レイアウトと独自のイベント開催で高い満足度を獲得できた。

23120 □展覧会収支　計画段階で予定した入館者数・有料率・グッズ販売は達成できたか

実施内容：
【ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳 わたしの国貞】
入館者数82,782人　有料率75.3％
図録販売数　7,417冊（購入率9％）
【古代ギリシャ展】
入館者数99,447人　有料率67.8％（会期全体）
図録販売数4.243冊（購入率4.3％）（会期全体）

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
【ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳 わたしの国貞】
総入館者数は目標（9万人）を下回ったが、入館者有料率（目標68.7％）と物販・図録の購入率（目標5％）が非常に高く、収支はプラスに転じた。巡回浮世絵展の収支プラスは5回連続続いたことになり、改めてその収益性の高さが実証された。
【古代ギリシャ展】
入館者数が目標（183,00人）に大きく届かなかった。有料率（目標72％）・図録販売率（目標5％）も目標よりやや下回ったために収支均衡には至らなかった。。

23130 □満足度---展覧会の入館者が満足できたか（全体満足度83以上。他の細目についても80以上を目指す）

実施内容：
【俺たちの国芳 わたしの国貞】全体満足度 84.6
スタッフの対応：80.7　展示の見やすさ：79.4
解説のわかりやすさ：77.7　展示の環境：69.7
展示品の質：90.3　図録：81.0

【古代ギリシャ展】全体満足度 87.0。
スタッフの対応：83.3　展示の見やすさ：80.0
解説のわかりやすさ：75.7　展示の環境：77.2
展示品の質：89.0　図録：77.6

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
２展とも目標を上回っており、特に「古代ギリシャ展」への評価が極めて高いことが注目される。古代ギリシャのイメージを覆すユニークな資料とわかりやすい展示手法が奏効したと言える。満足度は87％となり、統計を取り始めてから過去最高となった。
「俺たちの国芳 わたしの国貞」展は、照明環境の改善、斬新な展示コンセプトと展示室デザイン、作品自体への高評価が目立つ。真夏の開催であったため、環境面での評価が低調であったが、他の項目で従来の浮世絵展の評価を大きく上回った。「暗くて見づらい」「解説が難解」というこれまでの浮世絵展の不評を返上し、多くの方々に楽しい印象を残すことができた。

活動目標 **3. 芸術・文化を介して、利用者が広く交流できる博物館にします。**

教育普及の面では従来の取り組みに加え、新たな教材や講座等を実施できたところを評価したい。

また、他の美術館・博物館との連携では「我が名は鶴亭」展で長崎歴史文化博物館と相互の所蔵資料を活用した巡回展が実施できたことや、文化庁補助事業において近隣館との連携がなされているのは望ましいことである。

なお、広報活動に関しては、館独自で行うことの限界はあるが、工夫によって補っていくことが望まれる。

活動内容 ◎31000学校との連携を図ります

この活動内容への評価　**A 目標が十分達成されている（9割以上）**

例年通り学校との連携は十分図れている。教育普及プログラムに関しても他館に比して多くのプログラムを有しており、特別展に関連したワークショップのメニューも新規開発を行っている。

戦略方向性 ○31100学校との連携

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

例年通り、連携授業では多くの学校に伺い、博物館の所蔵資料を活用した授業を実施している。しかしながら現在の体制ではこれ以上の増加は無理であり、将来的に人員増が実現した時に、資料の活用を工夫してもう１グループ結成し、合わせて2グループでの対応を図ることが望まれる。学校団体の来館も27年度と変わらず、ORについても学校の要望に合わせて実施している。今後は神戸市内の小学校の来館のさらなる増加を図る必要がある。

31110 □小・中・高等学校の受入数---小・中・高等学校の来館などに対して適切な受け入れができているか

実施内容：
【学校団体来館数】
幼稚園2園(97名)、小学校37校(2673名)、中学校73校(3273名)、高等学校22校(845名)、大学12校(311名)特別支援学校27校(281名)、専門学校2校(84名)、合計175校(7564名)
【学校団体オリエンテーション実施数】
幼稚園1園(84名)、小学校26校(2050名)、中学校13校(587名)、高等学校5校(202名)、特別支援学校 3校(32名)、専門学校1校(50名)、合計49校(3005名)
【オリエンテーションの内容】
古代の神戸7校、源平合戦図屏風1校、居留地・文明開化4校、生田川・湊川の付け替え3校、港の発展など6校、ザヴィエル1校、神戸の歴史・館蔵品5校、博物館・常設展紹介2校、特別展19校
【トライやる・ウィーク】
春季は6月1~3日、7~10日の2週間、秋季は11月1・2・4日、8~11日の2週間で実施。参加者は14校24名。券売の補助、収蔵庫整理、学習室での活動及び旧居留地探検、子供向けの特別展出品作品紹介パネル制作などを行った。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
小中学校の校長会に資料説明に、各校にポスター・チラシを送付し、広報に努めている。
班別来館も積極的に受け入れて対応している。
のびのびパスポート圏外の有料の学校団体の受け入れに関しては、特別展会期中は特別展料金での入館を基本として対応しているが、学校の実情からすると入館料が高額になるため敬遠されがちである。また、実際には常設展だけと強く希望した学校は常設のみでの入館を許可することもあるため、対応が統一されていない。

31120 □連携数（出張授業等のアウトリーチ数、教材の貸出数）---積極的に博物館の２次資料の活用と職員の活用が図れているか

実施内容：
年度当初の校長会、学校に配布する博物館利用案内で連携授業プログラムを紹介。4月当初から電話にて授業の受付を開始。日程調整、学校との打合せ、授業実施と進めた。
考古に関する連携授業に関しては、学芸員も同行し、より専門的な講話、資料活用を進めた。「伊能忠敬の日本地図」では、27年度に作製した“わんか羅針”のレプリカ教材を用いて、子供たちの理解を深める展開を進めた。
28年度の連携授業は、134校（幼1、小122、中9、高1、特別支援１）。対象人数は10102名で連携授業最多の人数であった。学芸員は3名、のべ24校の授業に同行し、より専門性が高い内容の講話を行うことができた。

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
年度初めの2，3日で2学期までの予定が埋まってしまうほど人気がある。しかし、現在の体制では限度枠に達している。体制を考え直す必要がある。

31130 □教員研修の受け入れ---博物館を利用する教員のために研修を行っているか

実施内容：
7月27日　有馬小学校職員研修　12名
10月2日　「先生のためのミュージアム活用術」浮世絵摺り体験講座　17名

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
26年度より「先生のためのミュージアム活用術」を年1回開催し、神戸市内外の教職員を対象に浮世絵摺り体験講座を開催してきた。この研修会に参加した教員から連携授業「浮世絵入門」の依頼もあり、教育普及活動全体に大きく貢献している。神戸市内の学校や神戸市立小学校の研究部の研修会は依頼を受けて実施。学校に出向いての開催や講堂での講演で対応している。

31140 □大学との連携事業数---博物館実習を円滑に行えているか、見学実習への対応ができているか

実施内容：
博物館実習：
第1班　8月16日～20日　9大学11名
第2班　8月23日～27日　10大学12名

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
28年度は発表課題を新たにし、各班2チームによる模擬展示を行った。初めての取り組みのため、博物館側も充分な準備・イメージができていない点はあったが、学生が協力して展示作業に取り組むのは実習としてふさわしいあり方であった。

31150 □大学との連携---博物館実習以外の連携の取り組みは行われたか

実施内容：
【神戸市外国語大学との連携】
松方コレクション展記念講演会「松方幸次郎の出会ったイギリス―造船業と文化を中心に―」光永雅明教授　参加者137人
【神戸松蔭女子学院大学との連携】
28年11月に連携協定を締結
移動博物館「おきしお夢はこぶ号」が大学祭に参加、学芸員課程の学生が「おきしお夢はこぶ号」で展示・解説を実施。学芸員課程を持つ大学で、移動博物館を活用した当館名品の出張展示を、大学生が行った。

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
神戸市外国語大学との連携については、毎年1回ではあるが記念講演会への大学からの講師派遣や当館学芸員が大学に出向いてのシンポジウムなどの実績を継続的に積み重ねている。また28年度よりあらたに神戸松蔭女学院大学との連携も始まり、29年度からの新たな展開が期待できる。

戦略方向性 ○31200教育普及プログラムの確立

この戦略方向性への評価 A 目標が十分達成されている（9割以上）

教育普及プログラムや子供向け事業に関しては、他館に比してはるかに多くのプログラムを有している。ジュニアミュージアム講座の参加者が内容によって増減があるのがやや問題である。
ワークショップの内容企画の再検討や学校配布チラシがない場合の広報手段を考える必要がある。

31210 □教育普及プログラム数・内容更新---イベント及び教材の整備・更新状況、常設展のプログラムの開発状況など

実施内容：
28年度に行った新規事業：
中高生向き博物館たんけん隊の新規開催　7月30日 参加者15人
源平合戦図屏風・南蛮屏風を使ったジュニアミュージアム講座の新規開催　12月17日　参加者15人
学習支援交流員ワークショップ「浮世絵摺り体験」の新規開催（不定期・複数回開催）
【共催事業として新規の取り組み】
神戸生活創造センターでの浮世絵摺り講座（子供向け7月28日・大人向け1月14日）　参加者15人
こべっこランドでの銅鐸鋳造講座　8月18日　参加者8人
清風公民館での浮世絵摺り講座　1月19日　参加者15人

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
「実施内容」の通り、新たな取り組みを企画・実施することができた。それぞれの実施について、今後も継続していける手ごたえがあった。従来のプログラム（主に連携授業など）については、大きな内容の更新はできていないが、リニューアル後の歴史展示・コレクション展示の内容を先読みしつつ、早期に見直しに着手すべきである。

31220 □子ども向け事業の展開---各種子ども向け事業が円滑に実施されているか

実施内容：
【特別展に関連したジュニアミュージアム講座 全6回 参加者83人 】
・5月21日「水墨画を描いてみよう」(鶴亭)・7月2日「立体浮世絵をつくろう」(国芳国貞)・10月29日 「合体アートを創りだせ」(松方)・11月19日「ピカソに挑戦せよ」(松方)・1月21日「オリジナルコ インを作ろう」(ギリシャ)・2月18日「古代オリンピックを再現しよう」(ギリシャ)
【常設展期間中のジュニアミュージアム講座 全2回 参加者33人】
6月11日 「浮世絵・摺師に挑戦」・12/17 「屏風絵って何だろう」
【こどもの日スペシャル 1回(午前午後2回実施) 参加者26人 】
開催中の「我が名は鶴亭」展の見どころ解説と篆刻ワークショップ
【夏休み土器づくり教室 成形2回焼成1回 参加者のべ62人】
【博物館たんけん隊(小学生の部1回 参加者29人)(中高生の部1回 参加者15人、うち中学生14人) 】
午後の中高生対象の部は、 28年度より新たに実施。
【親子鑑賞会2回 参加者69組191人 】
7月17日の特別展「俺たちの国芳・わたしの国貞」、11月13日「松方コレクション展」に関連して、それぞれ午前と午後、地階講堂で解説会を行った。
【こうべ歴史たんけん隊 1回 参加者15人 】
28年度は、開催中の特別展「古代ギリシャ」の簡単な解説会を行 い、その後、日本とギリシャに共通する場所を貸切バスで訪問。訪問先は明石稲爪神社、五色塚古墳、清盛塚、来迎寺、神戸北野オリーブ園跡地。昼食は五色塚古墳。
【学習支援交流員ワークショップ】
(夏休み他不定期に十数回実施) 夏休み計5回開催参加者137人 不定期は未集計

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
今年度の子供向けプログラムの開催は、その回数からみても充実してきていると考えられる。多くのプログラムで好評価を得ている。特に外部施設での開催だった「夏休み土器づくり教室」は、参加者の移動・集合から、土器の焼成・引き渡しまで無事かつ円滑に行うことができた。「我が名は鶴亭」展に連動して行われた篆刻のワークショップでは、石を篆刻刀で削るため、怪我をしないように注意喚起し、無事に作品制作を進めることができた。
中高生向けの博物館たんけん隊は、28年度からの新たなワークショップだったが、高校生の参加者をいかにして集めるかが、29年度の課題となる。

31230 □移動博物館車「おきしお夢はこぶ号」の運営は効果的に行われたか

実施内容：
28年度は135回の連携授業の内、21校で「おきしお夢はこぶ号」での展示を行った。この数は27年度と同数である。28年度は市内外での各種イベントで「おきしお夢はこぶ号」の展示は7カ所。神戸まつり「はっぴぃひろば」、灘・夢ナリエ、おもちゃ王国「はたらくくるま大集合inかとう」、六甲アイランドのＲＩＣエコアートカプセル、古代体験フェスティバル、こべっこランド、ノースプロジェクトに参加した。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　　以下はその詳細：
教育普及用のツールとして周知されるようになった「おきしお夢はこぶ号」であるが、まだまだ周知を広めていく必要がある。
またより周知され活用が増えていくために、学校その他へのＰＲを続ける必要がある。

活動内容 ◎32000地域との連携を図ります

この活動内容への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

旧居留地協議会に関してはメンバーとして旧居留地の街づくりに関する議論に参画し、三宮センター街１丁目・2丁目の各商店街振興組合の協力を得て、当館で開催する特別展のバナー、ポスター、映像広告掲示が行えた。また、みなと銀行とは子供向けワークショップを共催するなど、地域の各種団体等との連携・協力が出来ている。勤労市民センターなどで開催される講演会の講師派遣数（９件）、地域の大学の非常勤講師を含むその他事業への講師派遣数（33件）も例年と同じレベルで実施できており、学芸員の専門性や地域の要請に応じた生涯学習に関する支援も図れている。

戦略方向性 ○32100居留地協議会、周辺商店街等との連携

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

旧居留地協議会に関してはメンバーとして旧居留地の街づくりに関する議論に参画し、三宮センター街１丁目・2丁目の各商店街振興組合の協力を得て、当館で開催する特別展のバナー、ポスター、映像広告掲示が行えた。また、みなと銀行とは子供向けワークショップを共催するなど、地域の各種団体等との連携・協力が出来ている。

32110 □連携数など---地域の協議会や商業地と情報連絡と連携を密にしているか

実施内容：
旧居留地連絡協議会においては管理課長が常任委員会の委員を務め、会議等に出席したほか、旧居留地内の環境整備や防災・防犯、広報等に関して協力した。特に環境整備に関してはクリーン作戦に参加し、広報面においては神戸開港150年を迎えるにあたって特集した広報紙『居留地会議』に資料写真等の提供で協力した。三宮センター街１丁目、２丁目、元町商店街の各商店街振興組合の協力を得て、我が名は鶴亭展、ボストン美術館展、松方コレクション展、古代ギリシャ展に関し、バナー、ポスターの掲示、映像広告の放映を実施した。

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
当館は旧居留地連絡協議会の構成員であり、継続して協力関係にある。三宮センター街1丁目、2丁目、元町商店街の各商店街振興組合の協力が得られ、各種広報が展開できた。特に三宮センター街は各駅および三宮の中心街から博物館までの導線上にあり、大型バナーの掲示、及び大型スクリーンでの映像広告の広報効果は高かった。

32120 □共催事業など---開かれた博物館として、各種団体と共催事業が実施できているか

実施内容：
8月21日　みなと銀行との共催事業　「オリジナル風鈴をつくろう」
　午前の部・午後の部　２回実施　参加者　28人

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
27年度に続いてみなと銀行との共催によるワークショップ「オリジナル風鈴をつくろう」を実施した。
この事業は、透明ガラスの風鈴にアクリル絵の具で好きな絵を描き、オリジナル風鈴を製作するというものである。午前・午後の部と各定員15人で実施した。応募は募集定員を大幅に超えている。急な欠席があったが、28人の参加が得られ、参加者からは好評を得ることができた。

戦略方向性 ○32200生涯学習の支援

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

勤労市民センターなどで開催される講演会の講師派遣が９件、地域の大学の非常勤講師を含むその他事業への講師派遣も３３件あり、学芸員の専門性や地域の要請に応じた生涯学習に関する支援も図れている。

32210 □連携数（出前講座・講師派遣など連携事業数）

実施内容：
28年度　　勤労市民センターへの派遣9件
　　その他の事業への講師派遣など33件

勤労市民センター・神戸市立博物館連携事業
　7月2日 「ボストン美術館所蔵 俺たちの国芳 わたしの国貞」展覧会の楽しみ方　59人
　9月10日　兵庫ゆかりの芸術家たちの作品を通して
　　①「兵庫高校の卒業生たち　小磯良平、東山魁夷・・」39人
　9月17日　兵庫ゆかりの芸術家たちの作品を通して
　　②「川西英をめぐる芸術家たち」　29人
　10月29日「松方コレクションー松方幸次郎夢の軌跡ー」展覧会の楽しみ方　80人
　11月2日 「神戸ゆかりのある画家の作品を通じて」　21人
　11月26日「兵庫のみほとけ」　54人
　1月21日 「神戸市立博物館の楽しみ方」　28人
　2月5日　ワークショップ「チョコレートでつくる卑弥呼の三角縁神獣鏡」　8人
　2月25日 「史跡和田岬砲台を探る　ー解体修理の記録ー」　48人

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
25年度から始まった勤労市民センターとの連携事業は、市民に対する博物館の展覧会の広報として、また、神戸の歴史、所蔵品の理解を深めるよい機会となっている。その他の事業への講師派遣等も含め、学芸員の専門性に応じた地域との連携、発信は内容・回数ともに十分に実施できている。講師派遣は相手方からの依頼に基づくため評価が困難であるが、参加者からのアンケート回答には「今後もこのような講座を希望」「話しがわかりやすかった」「居留地関係、神戸の近代化遺産についてのテーマを希望」「県内の仏像、寺社の宝物についての講座を希望」「展覧会のねらいがよくわかった」などの意見があった。

活動内容 ◎33000他の博物館・美術館との連携を図ります

この活動内容への評価　**A 目標が十分達成されている（9割以上）**

他館に対し、分野の隔たりなく館蔵資料の貸出し、発信がてきている。特に28年度は、館蔵資料の国際的な魅力発信（中国・蘇州美術館への作品貸出）や、充実した質・量を誇る館蔵コレクションの魅力発信（板橋区立美術館への長崎版画の貸出）ができた点は評価できる。加えて寄託資料（仏教美術館系）の活用・発信もできた。また学芸員の専門性を活かした外部委員（資料購入評価委員、資料調査委員）、講演会講師なども他館の要請に応じている。特別展「わが名は鶴亭」展では長崎歴史文化博物館と相互に資料を活用し、研究成果を共有することができた。また、文化庁の補助事業「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」を活用して市内の複数の博物館・美術館と連携し、各館の特色を活かした事業が展開でき、参加者から高い評価を得られた。さらに28年度は木曜会（阪神間美術館博物館連絡協議会）幹事館として、参加館25館を取りまとめた。

戦略方向性 ○33100他の博物館・美術館等との情報交換、連携事業の展開

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

他館に対し、考古・歴史・古地図・美術の各分野から、古代から近代までの資料を貸し出しており、分野の隔たりなく館蔵資料の発信がてきている。特に28年度は、蘇州美術館への貸出もあり、国際的に館蔵資料の魅力を発信できた点、板橋区立美術館へ大量の長崎版画の貸出を行い、その魅力を発信できた点は評価できる。加えて仏教美術関係の寄託資料の貸出もあり、寄託品の活用もできた。また資料購入にかかる評価委員、資料調査委員、講演会講師などを務めており、学芸員の専門性も他館や他機関において活かすことができた。長崎歴史文化博物館と相互に資料を活用し、研究成果を共有しながら特別展「我が名は鶴亭」展を開催できた点は、他館との連携、館蔵資料発信の両面において評価できる。また、文化庁の補助事業である「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」を活用して市内の複数の博物館・美術館と実行委員会を結成し、ミュージアム活用術などの事業を実施し、参加者から高い評価を得られた。さらに28年度は木曜会（阪神間美術館博物館連絡協議会）幹事館として、例会を4回開催し、参加館25館と意見交換を行うこともできた。

33110 □他館での館蔵資料の発信---他館との協力の下、相互に資料の貸借を行っているか

実施内容：
28年度：申請数27件（貸出先27件）170点

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
考古・歴史・古地図・美術の各分野から、また、古代から近代まで各時代の資料をバランスよく貸し出す結果となっている。今年度は、蘇州美術館へ貸出を行い、国際的に館蔵資料の魅力を発信できた点も評価できる。また、板橋区立美術館へ大量の長崎版画の貸出を行い、その魅力を発信できた点も特筆される。加えて、市内の寺社や個人が所有する仏教美術関係の寄託資料の貸出もあった。寄託資料の活用という意味でも意義深い。

33120 □他館での委員、講師など---学芸員の専門性が他館においても発揮され活用されているか

実施内容：
28年度　14件

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
各学芸員の専門分野を生かして、資料購入時の評価委員、資料調査委員、講演会講師などの任にあたった。平成27年度から28年度の３人の退職者によって発信数自身は半減しているが、学芸員は専門性を活かして他館においても積極的に情報発信に努め、また資料購入時の評価委員など館の運営に協力できた点、評価できる

33130 □他館との共催事業---他館と共催して展覧会や講座等を行っているか

実施内容：
相互の資料を活用し、研究成果を共有しながら準備を進めてきた、特別展「我が名は鶴亭」展が長崎歴史文化博物館で開催された。作品解説、図録の制作を２館の学芸員が協力して行った。また、文化庁の補助事業である「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」を活用して神戸市立小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館、竹中大工道具館、神戸ファッション美術館とともに実行委員会を結成し、ミュージアム活用術などの事業を実施した。
また、28年度は木曜会（阪神間美術館博物館連絡協議会）幹事館として、例会を4回開催し、木曜会参加館25館と意見交換を行った。

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
特別展「わが名は鶴亭」展において、収蔵資料、研究テーマを共有する館が相互に連携した展覧会を開催できた点が評価できる。文化庁の補助事業において連携実施した各事業については、参加者から非常に高い評価を得ることができた。木曜会に関しては、幹事館として会の運営に積極的に取り組み、阪神間の博物館・美術館の連携強化に寄与できた点は高く評価できる。

活動内容 ◎34000各種講座を一層充実します充実した内容の各種講座を行います。

この活動内容への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

例年通りの事業数、参加者数を確保している。現実的にはすでに飽和状態で新規講座の開発は困難と考える。利用者ニーズを把握してその都度講座の内容に反映できるようになることが望ましい。

戦略方向性 ○34100講座内容の開発、充実の開催

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

講座の事業数については例年通り実施することができた。参加者数は「ミュージアム講座」についてはほぼ上限である。「博物館をたのしむ」はあまり知られていないため、今後は積極的にいろいろな媒体で広報の必要がある。特別展解説会については今まで通り講堂で開催するスライド解説会の方法がギャラリートークよりもより現実的である。

34110 □事業数---特色ある「ミュージアム講座」や講座「博物館をたのしむ」が実施、運営できているか

実施内容：
【ミュージアム講座】 学芸員による講座。各90分、全6回
第1講 10月20日「ジャポニスムと松方コレクション」/143人 第2講 11月17日「神戸の文化財建造物あれこれ」/128人 第3講 12月15日「神戸の中世城郭探訪」/121人 第4講 1月19日「美と智と神秘と 古代ギリシャ7000年の旅」/130人 第5講 2月16日「豊臣秀吉と有馬」/135人 第6講 3月16日「近代和ガラスの魅力」/119人
【博物館をたのしむ】 学芸員による実物資料を用いた講座。各90分、全3回
第1講 6月10日考古学の年代をはかる/9人 第2講 6月24日(金)浮世絵をたのしむ/9人 第3講 7月1日花鳥画をたのしむ/8人
【特別展解説会】特別展開催中の土曜日に開催。各30分
「我が名は鶴亭」展:サタデートーク(毎週土曜14時～、全8回、合計750人) 「俺たちの国芳 わたしの国貞」展:イブニングレクチャー(毎週土曜17時-、全11回、合計1,371人) 「松方コレクション展」:イブニングレクチャー(毎週土曜17時～、全11回、合計1,153人) 「古代ギリシャ展」:イブニングレクチャー(毎週土曜17時～、全14回、合計1,645人)

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　　以下はその詳細：
各講座の内容について、特別展だけでなく、神戸の歴史や館蔵品に関する内容の講座を計画通り実施できた。 ただし「博物館をたのしむ」は、応募が定員に満たなかったので、広報に課題が残る。

戦略方向性 ○34200利用者ニーズの把握

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

各種講座についてアンケートを実施し、おおむね8～9割の回答を得ている。これを参考に改善できる点は対応している。

34210 □利用者満足度---利用者の満足度を測るためにアンケートを実施しているか。またその満足度は？

実施内容：
講座終了後アンケートを実施。
①「博物館をたのしむ」アンケート：参加者10人のうち9人の回答を得た。
②「ミュージアム講座」アンケート：最終日参加者119人のうち、103人の回答を得た。

ミュージアム講座アンケート集計結果
性別：男35、女66
年齢層：20代1、30代1、40代7、50代4、60代36、70代44、80代7
職業別：主婦55、無職44他
受講料：安い44、やや安い6、適切53
講座内容：わかりやすい50、まあわかりやすい42、特になし5、少しわかりづらい3
講座全体：興味が持てた57、まあ興味が持てた42、どちらでもない2、あまり興味が持てなかった2

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　　以下はその詳細：
「博物館をたのしむ」のアンケートについては、毎年、参加者が概ね満足しているという結果が得られており、28年も同様であった。「ミュージアム講座」についても、講座の内容等に関する評価は、例年とほとんど変わらず、概ね満足している様子がうかがえる。開催中の展覧会を深く掘り下げた内容、あるいは博物館所蔵資料に関連した講座開催を期待する声も多かった。
今年度は例年よりも受付スタッフの数を減らしたが、27年度（回答者107人）と比較して、「スタッフの対応が良い」と応えた人数が69人から80人へと、幾分多くなった。

活動内容 ◎35000広報活動を充実し、各種事業を広く紹介します

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

庁内・庁外に対する資料提供・情報提供、掲示等、日常的な広報活動は精力的に行っており、無償の広報媒体については積極的に活用している。また特別展に関しては広報予算があるが、経常的な広報予算がないため展覧会以外の事業について主体的な広報が展開できていない点が課題である。
魅力あるホームページを通じた正確かつ迅速な情報提供については、特別展等の資料提供については概ね目標どおりにできているが、出品目録については、完成時期の問題もあり評価基準とする時期について再考が必要である。また27年度にくらべトップページへのアクセス数が減少しているが、これはSNSでの発信量に左右されている可能性もあり、留意が必要である。SNSの情報発信は27年度以上に活発に行われたが、展覧会の性質によりSNSの効果に違いがあることも分かってきた。29年度はSNSによる情報発信についても特別展以外の話題も含め、計画的な発信が課題である。

戦略方向性 ○35100広報活動の充実

この戦略方向性への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

庁内・庁外に対する資料提供・情報提供、掲示等、日常的な広報活動は精力的に行っており、無償の広報媒体については積極的に活用している。また特別展に関しては広報予算があるが、経常的な広報予算がないため展覧会以外の事業について主体的な広報が展開できていない点が課題である。

35110 □広報掲載件数---あらゆる手段を用い、幅広く効率よい広報活動で情報提供できたか

実施内容：
記者提供20件
神戸市関係広報74件
その他媒体 148件
「日本博物館協会」「インターネットミュージアム」等のウェブサイトにも参加し、定期的に情報を更新している。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
無償で利用できる広報媒体については可能な限り利用しているが、日常的に、博物館が新たな広報媒体を探すという自発的な活動はしていない。

戦略方向性 ○35200HPの更新

この戦略方向性への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

ホームページアクセスが、SNSでの発信量に左右されていたかのような現象が見られることは、留意される。次年度はより計画的なSNSの運用が望まれる。

35210 □HPの更新回数、ページ数、アクセス数---正確かつ迅速な情報提供ができているか

実施内容：
28年度は57回の更新を行った。展覧会ページは資料提供とあわせて、おおむね１カ月前の情報提示ができたが出品目録は納品が会期直前のことが多いため、2週間前までの提示ができなかった。
トップページへのアクセス数は690,194で、27年度より低下。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
様々な制約で、迅速に情報公開ができないものもあった。アクセス数はSNS展開を積極的に行った「俺たちの国芳 わたしの国貞」展開催期間が好調だったが、他が低調。SNS発信量にHPアクセス数が左右される傾向とも解釈されるが、SNS発信は27年度より活発に行われた結果、HPへのアクセスが相対的に低下したとも考えられる。

戦略方向性 ○35300SNSでの情報発信

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

年間を通じた数値自体は昨年以上にSNSの情報発信が活発に行われたが、「俺たちの国芳 わたしの国貞」展のように当初からSNSとの相性を念頭に作られた展覧会と、そうでないものとでは自ずとSNSによる効果が異なってくる。また、特別展以外の話題をいかに提供し、盛り上げていくかという課題も残されている。

35310 □公式フェイスブックページ、ツイッターは効果的に運用されているか

実施内容：
【公式フェイスブックページ】
185回の写真・記事の追加、リーチ数(記事が表示された回数)252,345。いいね(フォロワー数)2,682。
【公式ツイッター】
334ツイートで、インプレッション数(アクセス数)1,150,324。フォロワー数7,005。

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
6～8月に開催した「俺たちの国芳 わたしの国貞」展がSNS公開を前提とした企画だったため、公式フェイスブックページ・ツイッターともに好調で、27年度比大幅増に貢献した。（27年度は、公式フェイスブックページでは188回の写真・記事の追加を行い、171,065リーチだった。ツイッターは、131回のツイートで325,613インプレッションを得ている。）

活動内容 ◎36000市民ニーズを把握し、必要な改善を行います

この活動内容への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

博物館利用者の声をアンケートを通じて汲み取り、問題点に即座に対応する体制が整っているものと判断される。29年度はリニューアル後の広聴態勢の検討に取り組むこと。

戦略方向性 ○36100定期的な利用者へのアンケート調査

この戦略方向性への評価 A 目標が十分達成されている（9割以上）

特定の職員だけに依存せず、学芸課全体でアンケート収集・集計のルーチンが定着し、これを有効活用する体制が整ったことが実感される。

36110 □アンケート調査に基づくニーズ・満足度の把握

実施内容：
毎日の回収・集計は遅延不足なく実施。また、回収されたアンケート用紙は即時、職員間で供覧された。各日の展覧会全体のNSI（顧客満足度指数※）は即日集計され、ともに供覧。常設展開催時も、「お客様の声」ボックスを設置してアンケートを実施。回収用紙は即時職員間で供覧。
（※5段階評価について、（「良い」の割合%）×100 ＋ （「まあ良い」の割合%）×75 ＋ （「普通」の割合%）×50 ＋ （「あまり良くない」の割合%）×25 を100で割ったものが顧客満足度指数（NSI）となる。100が満点、及第点は75～80と言われている。）

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
展覧会期間中は、回収されたアンケートのコメント欄PDF化・NSI算出・回覧を当日または翌日に行い、職員間で入館者の要望・苦情や満足度の推移などを迅速に共有することができた。アンケートに記入されたキャプションの間違い等、即時対応可能な内容は修正した。

36120 □HPへの掲載・公開---アンケート結果を有効的に公開し情報提供できているか

実施内容：
29年1月、学芸会議において議論。入館者動向と評価の全項目については数値を公表することで確認。28年度の『年報』から特別展のアンケート結果をホームページで公表。展覧会ごとのお客様の動向（「男女比」「年齢構成」「回答者の住所」「利用した交通機関」「展覧会を知った媒体」）と、展覧会への評価（「スタッフ対応」「展示室環境」「展示の見やすさ」「解説のわかりやすさ」「展示品の質」「図録」「全体評価」の各NSI）を円グラフとして掲載した。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
学芸会議での議論を踏まえて、公開に踏み切った。それぞれの展覧会での入館者動向と評価をあらたに公開したことは、市民への情報公開の観点からも、画期的なことと評価できる。

36130 □アンケート評価への対応と改善---アンケート結果を有効に活用できているか

実施内容：
アンケートに記入されたキャプションの誤字などは速やかに修正した。また人的対応では関係者の間（運営・インフォメーションスタッフなど）で周知徹底した。特に「松方コレクション展」においては、キャプションの文字の小ささを指摘するアンケートが多かったため、会期前半で8割以上の作品を大型キャプションに入れ替えた。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
アンケートに記入された内容で、すぐに対応可能なことは実施・修正した。特に「松方コレクション展」において入館者からの要望を尊重して、大掛かりなキャプション変更をおこなった。ただし、本来は、アンケートに記された入館者からの声を常に意識しながら、展覧会の企画・展示会場の設定を行うべきであり、過去の類似展にどのような要望・苦情があったのか、つねに振り返り確認する努力も求められる。

戦略方向性 ○36200非来館者を含めた意識調査

この戦略方向性への評価 F 評価が困難

リニューアル後に調査実施を検討したい。

36210 □入館者以外の意識調査

実施内容：
リニューアルを控えていることから、検討実施には至らなかった。

自己評価： **F 評価が困難**　以下はその詳細：
本来なら実施するのが望ましいが、リニューアルによって当館の展示・普及・運営が大幅に変わることが見込まれることから、現時点での実施を見合わせている。

活動内容 ◎37000ボランティア活動を通じて、人々が交流できる場を作ります

この活動内容への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

ボランティアリーダーとなるべき学習支援交流員アドバイザーが中心となって、後進を育成しながら、自主的にワークショップを開催し、入館者の好評を得ている。引き続き、この状況を継続したい。

戦略方向性 ○37100ボランティア活動の実施

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

交流員主体の講座や博物館の企画事業においても多くの学習支援交流員が活躍している。近年は学芸員の指示がなくても自主的に役割を決めて活動することが当たり前になってきている。また、活動のリーダーとなるアドバイザーの人々により後進の育成が図られてきている。

37110 □実績（人数、回数、内容）---ボランティア活動が実施できるような活動の場が提供されているか、積極的な活動が見られたか

実施内容：

のべ1,870人/活動回数225回

定例会	12回361人
学習支援交流員自主企画運営ワークショップ・居留地案内	45回382人
博物館企画のシンポジウム、体験講座ワークショップ補助	20回192人
学校団体来館応対（学習室での学習支援と交流）	39回167人
トライやるウィーク等の学習支援	5回49人
特別展関連行事支援（開会式・講演会など）	23回194人
ミュージアム講座にともなう活動支援	5回35人
一般来館応対（学習室での学習支援と交流・館内案内）	20回40人
アンケート集計・広報印刷物発送作業	11回72人
自主企画・運営ワークショップ検討会・勉強会等	40回264人
登録および登録更新にかかる研修会	5回114人

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：

平成20年度に導入して以来9年目となり、活動回数や活動参加総人数は過去最高となった。学習室を中心とした学習支援活動に加え、アンケートの集計、講座・イベント開催時の補助、案内業務などにも積極的に参加する体制が整ってきた。

また、オリエンテーション時に使用する用具なども交流員で発案し、作成するなどますます活動の幅が広がってきている。

戦略方向性 ○37200活動内容の充実

この戦略方向性への評価　A 目標が十分達成されている（9割以上）

夏休みのワークショップに加えて、特別展期間中に不定期ではあるが、拓本のワークショップや浮世絵摺り体験のワークショップを自主的に実施するようになってきた。今後はこの活動の定期的な開催を目指してほしい。

37210 □活動内容---事業を創出するための活動が充実して行えているか、その内容は充実していたか

実施内容：

定例会	12回361人
学習支援交流員自主企画運営ワークショップ・居留地案内	45回382人
博物館企画のシンポジウム、体験講座ワークショップ補助	20回192人
自主企画・運営ワークショップ検討会・勉強会等	40回264人

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：

定例の会議などにより意思疎通を図っている。学習支援交流員自身が企画・運営するワークショップは年々充実してきている。28年度は、伊能忠敬の紙芝居を改善するなど、教材も充実してきている。また、「木版多色摺」など新たなワークショップも開発された。

活動目標 **4. すべての人々にやさしい博物館にします。**

施設・設備については、予算の制約のため、優先順位をつけて緊急性の高いものから実施しており、28年度は消防設備改修や中央監視システムの更新工事を実施した。非常用電源設備更新やトイレの改修など、対応すべき点もまだ残っているが、今後リニューアルを実施していく中で、より一層、ユニバーサルデザインの観点から必要な施設、設備の改修を進めていく。

活動内容 ◎41000誰でも利用しやすい施設、設備にします

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

最低限の設備改修工事や法令に準拠した点検、改修は行っており、その点ではA評価であるが、ユニバーサルデザインの取り組みでは施設面での対応は、最新基準に照らせば、基準もクリアしていないため、B評価としている。リニューアル工事で、最新基準をクリアできるよう努めたい。

戦略方向性 ○41100施設の計画的な補修、改修

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

28年度の改修工事については、特別展開催のため、一部で更新できない箇所が残ったが、概ね改修できた。また、法令で定まっている点検等については、当然クリアしている。今後も古い設備等の更新を計画的に行えるよう、財政当局に丁寧な説明を行いたい。

41110 □補修、改修などの中期計画策定---保全計画が立案されているか。必要な改修、設備更新がなされているか

実施内容：
自動火災報知設備更新工事、中央監視装置更新工事を行った。また、機械・設備の整備･点検を行い、博物館施設は、特に問題なく開館できた。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
自動火災報知設備は、特別展開催のため、工事ができない箇所が残り、一部更新できない部分が生じていたが、29年度に向け、吸収式冷温水発生装置、非常用発電装置の更新予算を要求した。吸収式冷温水発生装置については、オーバーホールができることになったが、非常用発電装置は29年度以降に繰り越された。

41120 □消防・建築設備等の点検、訓練、安全衛生の確保

実施内容：
エレベーターや自動火災報知装置など法定点検や修理を行い、法定点検をクリアするとともに、古い設備を更新して少しでも「既存不適格」部分をなくすよう努力をしている。
ただ、非常用発電機の更新の29年度予算への計上はできなかった。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
法令で決まっている点検等については、当然のことクリアしている。このため自己評価では、Aをつけているが、設備･機械が相対的に古くなっているため、今後も計画的に更新し、故障で博物館が開館できないことが起こらないようにしたい。

戦略方向性 ○41200省エネルギー・省資源への取り組み

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

KEMS（神戸式ISO14001）については、現在加入していないが、加入していたときの手法を参考に省エネルギー、省資源に取り組んでおり、概ね達成できたと考えている。ただ、博物館ではKEMSの手法を取り入れる余地が少なく、どういった環境負荷低減方法を構築するのかを、今後検討していきたい。

41220 □神戸環境マネジメントシステムを生かした環境負荷の低減

実施内容：
学校団体への講習と、周辺道路の清掃、コピー用紙の低減に取り組んでいるが、コピー用紙については、低減すべく努力をしたが、27年度と同程度であった。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
コピーの使用量を、少しでも低減するよう取り組んだが、結果的には27年と同程度であった。
毎年削減をしており、削減が限界に達している。今後ペーパーレスに取り組まなければ、目標を達成できないばかりか、多くなる可能性もある。

戦略方向性 ○41300ユニバーサルデザインへの対応

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

ユニバーサルデザインについては、入館者に対しての最低限の対応はできていると考えている（ただし、目の不自由な人への対応はできていない）。しかしながら、最新のユニバーサルデザインの基準と比較すると足りない部分も多い。リニューアルの基本設計や詳細設計の中で、現在の最新の基準に近づけていけるよう努める。

41310 □ユニバーサルデザイン取組---市の基準に照らして取り組んでいく

実施内容：
28年度については、特に実施していない。博物館リニューアル時に現在の基準としては必要最低限のユニバーサルデザインを取り入れるよう基本設計を行った。これまで要望の多かったトイレの台数増加と洋式化、各フロアでの多機能トイレの設置、保健室の移設など、アメニティ関連の改善にめどがついた。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
27年度に博物館リニューアルの基本計画が策定されたが、その中にもユニバーサルデザインのことが組み込まれている。28年度は、基本設計を行っているが、ユニバーサルデザインの考えを取り入れて設計を行うことができた。

活動内容 ◎42000誰にでも喜ばれるサービスを提供します

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

入館者のマナーの問題やスタッフの配置人数の問題もあるが、スタッフに対して入館者アンケートでも8割以上の方の満足を得られており、目標は概ね達成できた。

戦略方向性 ○42100人的サービスの充実(管理)

この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

人的サービスについては、スタッフ同士の連携も含め、入館者からの苦情も少なく、少ない人員にも関わらず、特に問題はなかった。ただ、警備会社が契約途中で履行できなくなった。あらたに契約を行ったが、混乱した面があったためB評価としている。

42110 □館内の運営協力体制---必要な職員・スタッフが配置され、連絡調整が十分なされているか

実施内容：
インフォメーションスタッフが4月から、また警備業務は6月と8月からと２回替わったが、大きな混乱、問題は発生しなかった。ただ、不慣れなスタッフもおり、今後、業務の習熟が必要である。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
十分連絡を取り合い、博物館の運営には特に大きな問題はなかった。

42120 □職員の研修---職場、庁内で実施できる研修以外に必要な研修が実施されているか

実施内容：
研修や講演参加については、ほぼ職員の希望どおりに参加できた。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
必要な最低限の研修は参加できた。

42130 □利用者サービス---入館者が気持ちよく博物館を利用できているか

実施内容：
【リニューアル関連】
ユニバーサルデザインも含めて、利用者の利便が増すような基本設計を策定できるよう努めた。
【清掃】
職員やスタッフからの清掃が必要との通報を受け、すぐに対応、清掃するように努めた。入館者からの苦情も概ねなかった。
【人的警備】
入館者以外の関係者のチェックや、展示室内でのチェックなど、問題発生を未然に防ぐため、監視体制の強化を行った。
【インフォメーションスタッフ】
対応マニュアルの習熟と新たな視点での入館者への応対を行った。
【喫茶室】
アンケートでもサービスについての評価は高く、特段の助言はしていない。ただ、価格が高いこともアンケートには書かれており、そのことにも店に伝えている。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
リニューアル基本設計でも、トイレの改修等実施される方向性で進んでいる。
清掃に関しては、通報があれば、すぐに処理しているが、入館者のマナーの問題、設備の老朽化という課題もある。
人的警備については、業者が2度替わり、初めて当館の業務を行った会社について、慣れない面もあり、当初十分なチェック体制が取れたとは言いがたい部分があった。
インフォメーションスタッフについては、28年度は業者の交代があり、メンバー全員が当館 のインフォメーション業務が始めてであったが、 入館者アンケートでも概ね好評を頂いた。次年度でまた業者が変わるため、基本的な応対マニュアルの習熟から取り組んでいく。
喫茶室について、博物館は経営の決定権を持っていないため、評価は困難。

戦略方向性 ○42200人的サービスの充実(学芸)

この戦略方向性への評価 C 目標の達成がやや不十分である（5～6割以上）

計画的な図書の整理・廃棄に向けた館内全体での取り組みが喫緊の課題となっており、リニューアル工事の開始までに解決しなければならない。また、今後の図書受入のシステム整備も必要となってきている。
新規グッズが開発できたことは評価したい。さらに、来館者が館蔵の資料に愛着を持って頂けるよう、柔らかい発想でのグッズ開発が望まれる。他館等での取り組みを日頃から注視することにも心掛けたい。リニューアル後のショップの魅力アップに直結できるよう、外部も含め、アイデアを出し合いながら進める必要がある。

42210 □図書受入数、目録のデジタル化、市立図書館との連携---図書の利用が円滑にできるようデータ入力と配架が行われているか。

実施内容：
購入、寄贈図書については円滑に登録、配架を実施した。また、受入済み図書の見直しについては、重複する図書をカードからリスト化した。一方で、受入図書や廃棄図書の基準づくりはできなかった。

自己評価： **C 目標を5~6割達成。**　以下はその詳細：
重複図書が1,200冊ほどある現状を把握することができた一方で、具体的な廃棄手続きまでたどり着けていないので、29年度には実施したい。

42220 □ショップのオリジナルグッズ数---利用者が欲しくなるような魅力的なグッズがたくさんあるか

実施内容：
既存商品：
・年報：26種
・研究紀要：32種
・館蔵品目録（美術）：32種
・館蔵品目録（考古・歴史）：32種
・館蔵品目録（古地図：13種
・展覧会図録：55種
・絵葉書：68種
・クリアファイル：7種
・一筆箋：2種
・付箋：1種

新規開発：
・マスキングテープ：7種
・ペーパーバッグ：1種

自己評価： **B 目標を7~8割達成。** 以下はその詳細：
ショップ運営業者は毎年のように入れ替わっており、年間の販売実績を適切に把握できていない。また、リニューアルに向けてショップの商品構成が大幅に変わることが予想されており、これを機に状況把握が出来る体制を整えたい。

42230 □ショップのオリジナルグッズの開発

実施内容：
新規ミュージアムグッズ製作：ペーパーバッグ1種（川西英）、マスキングテープ（7種）

自己評価： **B 目標を7~8割達成。** 以下はその詳細：
2種類とも今までのショップにはない商品であり、ミュージアムショップの充実に寄与できる。一方で、毎年度、グッズ製作は年度後半に行う傾向があり、28年度も年度末納品となったことは残念であり、29年度以降は早期に納品したい。

戦略方向性 ○42300人的サービスの充実(事業)

この戦略方向性への評価 A 目標が十分達成されている（9割以上）

特別展「古代ギリシャ」において「障害者のための鑑賞会」を開催した。本展は開催時期が冬季から春季にかけての展覧会であったため、気候が暖かくなる時期を考慮して実施した点は評価される。

42310 □障害者鑑賞会の開催---大規模巡回展において、障害者に対して配慮が図れているか

実施内容：
特別展「古代ギリシャ展」において「障害者のための鑑賞会」を開催した（3月13日）。27年度、大英博物館展に実施した時に比べて150人ほど多い、410人が入場した。

自己評価： **A 目標を9割以上達成。** 以下はその詳細：
27年度より大幅に多い参加者を得ることができた。運営もスムーズに行われたので評価できる。

活動内容 ◎43000予算の充実に努めます

この活動内容への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

神戸市の財政も厳しい中、博物館の運営のための予算は確保できたと考えている。
ただ、企業からの寄付は受けられず、予算上の目標入館者数については、約75％弱の達成率となったためB評価としている。

戦略方向性 ○43100予算の充実

この戦略方向性への評価　B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

予算の充実については、神戸市全体の財政事情が厳しい中、館の運営と展覧会の開催を行う予算が確保できた。ただ企業からの寄付金はもらえず、館の運営には支障がなかったが、B評価になった。

43110 □予算の充足度---必要な予算措置がされているか

実施内容：
法律で義務付けられているものや施設管理面で必要なものについては、予算の獲得をめざし、予算要求を行った。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
非常用発電機の更新は見送られたが、吸収式冷温水発生装置はオーバーホール費用が29年度予算に計上されることになった。

43130 □年間入館者数

実施内容：
４つの特別展と常設展を開催した。28年度総入館者数は338,732人（常設展5,989人、特別展332,743人)
特別展「わが名は鶴亭」　40,464 人
「俺たちの国芳わたしの国貞」82,782人
「松方コレクション展」116,065人
「古代ギリシャ展」　93,432人

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
年度後半のふたつの展覧会の入場者数が、想定に達しなかったことが響いて、目標（454,637人）を達成できなかった。

戦略方向性 ○43200予算の充実(展覧会事業関連)

この戦略方向性への評価　F 評価が困難

展覧会への支援・補助事業等は、それぞれ支援の理念、枠組みに沿って助成を行うものであり、展覧会の主旨や内容、運営形態が各支援・補助事業に合致しないこともあるため、継続的な評価は困難である。そのなかで、28年度はみなと銀行文化振興財団から特別展「我が名は鶴亭」に対し協賛を得ることができた。また、28年度は重要文化財等公開促進事業に該当する特別展がなかったため、申請していない。日本教育公務員弘済会兵庫支部より「俺たちの国芳　わたしの国貞」展、「古代ギリシャ展」に協賛を得ることができた。また、「松方コレクション展」においては、松方幸次郎が川崎重工業株式会社の初代社長でもあることから、同社より寄付金を受けている。このほかリニューアル後の外部資金の導入にむけて、寄付制度、ファンドレイジング、ふるさと納税の制度などについて調査・検討を行った。

43210 □支援金・助成金の獲得---市以外からの補助金、助成金、ものの提供などをどの程度受けたか

実施内容：
特別展「松方コレクション展」の開催に当たり、川崎重工業株式会社より寄付を受けた。また、みなと銀行文化振興財団から特別展「我が名は鶴亭」に、日本教育公務員弘済会兵庫支部から特別展「ボストン美術館所蔵　俺たちの国芳　わたしの国貞」、特別展「古代ギリシャ展」への協賛を得ることができた。さらに文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」補助金を受け、教育普及関係の教材作成やワークショップの材料費に充当した。また28年度は博物館・美術館業界でのファンドレイジングの事例について調査を行い、今後の資金確保に向けての基本的な情報を収集した。

自己評価：**B 目標を7~8割達成。**　以下はその詳細：
本年度の寄付としては、川崎重工業株式会社からのものが突出していたが、「松方コレクション展」の開催を前提にしたものであり、博物館で創設120年記念展と社員教育のための寄付という意味付けがあり、純粋なメセナ活動とは言い難い。また、28年度から始めた博物館・美術館業界でのファンドレイジング事例を参考にしながら新しい取り組みを模索することが望まれる。

43220 □みなと銀行文化振興財団---財団の趣旨に応じた自主企画を以って、支援金を申請しているか

実施内容：
「我が名は鶴亭」展に対する協賛を得た。

自己評価：**A 目標を9割以上達成。**　以下はその詳細：
みなと銀行文化振興財団の支援金は、自主企画展に対して支援金を拠出するものであり、28年度は当館が企画し、鶴亭やその周辺の画家の作品も多数出品する「我が名は鶴亭」展への支援金を申請し、協賛を得ることができた。

43230 □重要文化財等公開促進事業（文化庁）---重要文化財等の公開に際し、事業費を申請しているか

実施内容：
28年度の自主企画特別展では公開促進事業に該当する指定品公開は行われなかった。（「我が名は鶴亭」展は実行委員会形式のため、本事業に該当せず）

自己評価：**F 評価が困難**　以下はその詳細：
展覧会の開催形式に応じて、積極的に申請する必要がある。そのためには、開催前年度より以前から調査研究、借用交渉を継続する必要がある。

戦略方向性 ○43300活動指標の内部評価と外部評価の実施　　この戦略方向性への評価 B 目標がほぼ達成されている(7～8割以上)

27年度・28年度評価の実施に遅れをきたしたのは反省材料として残る。28年度の評価指標を基礎に、29年度以降の評価（案）が策定できた。館内での周知は完了している段階なので、できるだけ早急に神戸市立博物館協議会に諮った上での運用の必要がある。

43310 □自己点検、評価システム---有効に機能しているかどうか、　見直しが必要かどうか

実施内容：
28年度までの「神戸市立博物館の評価」に替わる、29年度以降から採用する「神戸市立博物館事業点検評価」案を策定。従来の112項目から、48項目に点検項目を絞り込み、より明確な命題設定、人事評価とのすみ分けを行うことで、よりスムーズでわかりやすい点検・評価のためのシステムがほぼ完成した。ただし、27年度事業に対する自己評価・外部評価が大幅に遅れた（11月25日の神戸市立博物館協議会）。また28年度評価についても年度内での自己評価を完結することができなかった。

自己評価： **B 目標を7~8割達成。**　　以下はその詳細：
29年度の新しい評価システムは、より効率的に組織としてのPDCAを実施することを目的に見直しが行われたが、28年度までの評価の遅れが見られる点は今後改善すべき課題である。